

中部大学工学部紀要 50 卷 (2014)

ISSN : 21877408



卷頭言

Preface

松尾直規・マツオナオキ・Matsuo Naoki

SUBJECT

ABSTRACT



中部大学

巻頭言

工学部長 松尾直規

中部大学は、昭和39年に機械、電気、土木、建築の4学科からなる中部工業大学として創設され、その後6学部を加えて、現在では7学部30学科を擁する総合大学となり、平成26年に創立50周年を迎えた。この間、工学関係では、昭和41年に生産機械工学科、電子工学科、工業化学科、工業物理学科を新設し、昭和46年には大学院工学研究科機械工学専攻、電気工学専攻の修士課程、その2年後に同専攻の博士課程を設置、8年後には建設工学、工業化学、及び工業物理の各専攻を加えた5専攻の博士課程を持つ大学院を設置した。その後、生産機械工学科を機械工学科に統合し、工業化学科を応用化学科に、工業物理学科を情報工学科に、電気工学科を電気システム工学科に、電子工学科を電子情報工学科に、土木工学科を都市建設工学科に変更するとともに、平成26年には学部ロボット理工学科を、研究科には創造エネルギー理工学専攻を新設し、時代のニーズに対応した学部および大学院の教育・研究を発展させてきた。

工学部紀要は、昭和39年の中部工業大学の創設に伴って創刊されて以来、上述した中部工業大学、中部大学工学部および工学研究科の歴史と共に歩み、本刊をもって記念すべき第50刊を発行する運びとなった。第1刊から第50刊の工学部紀要に掲載された研究成果は、半世紀にわたる工学の発展の歴史を語るものである。

工学部紀要が創刊された時代は、我が国が第2次大戦後の復興を成し遂げ、工業製品の大量生産を軸とする高度経済成長が始まった頃であり、その後の約20年間にわたって様々な工学分野の発展が多くの産業の創出と結びついて、我が国を世界トップクラスの工業国に押し上げ、今日の豊かな生活の礎を築いてきた。この間、工学部では、発展する産業を支える多くの技術者を世に送り出し、高度経済成長に多大な貢献をしてきた。一方、この時代には、急速な経済成長の過程で生じた公害問題に代表される各種の環境問題が顕在化したが、その対策として様々な工学技術の開発が進められ、この分野でも世界をリードする環境保全対策を成し遂げてきた。

昭和60年代から平成に入ると、バブルの崩壊とともに我が国の経済成長に陰りが見え始め、量的拡大から質的向上へ、画一性から多様性へ、開発成長から持続的発展を模索する時代へと大きな変化を遂げた。資源、エネルギー、環境問題に端を発したこうしたパラダイムシフトは、社会が工学に求める知見や技術にも大きな影響を与え、教育・研究についてもキャッチアップ時代からフロントランナー時代へと大きな変革が求められている。

工学部紀要には、こうした時代の変遷とその時々パラダイムを反映した数多くの研究者の貴重な研究成果が、50刊のそれぞれに盛り込まれている。これらを紐解き、中部大学工学部の歴史を顧みるとともに、新しい持続可能な福祉社会の実現に向けて、これからの50年を展望し、時代と社会が求める研究・技術の成果を、21世紀の社会に広く発信していくことが工学部紀要に与えられた変わらぬ使命である。